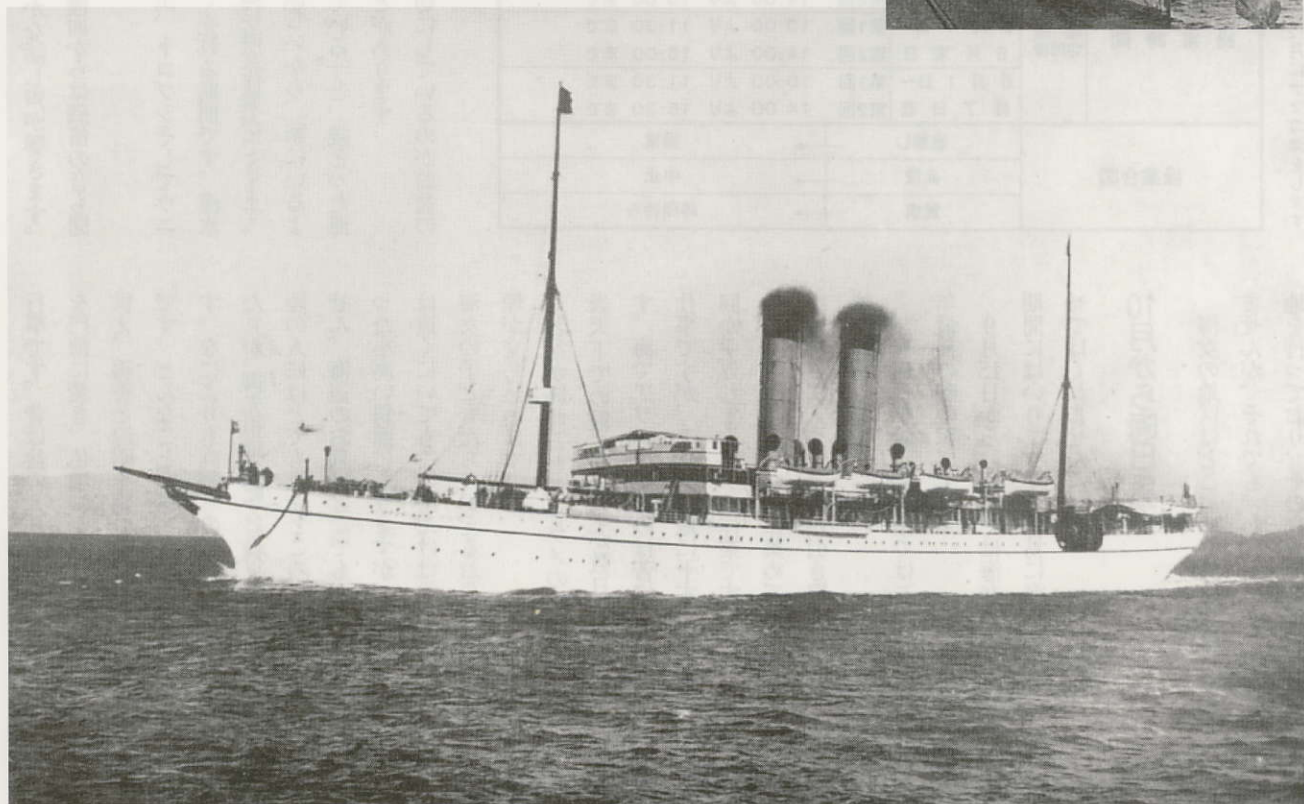
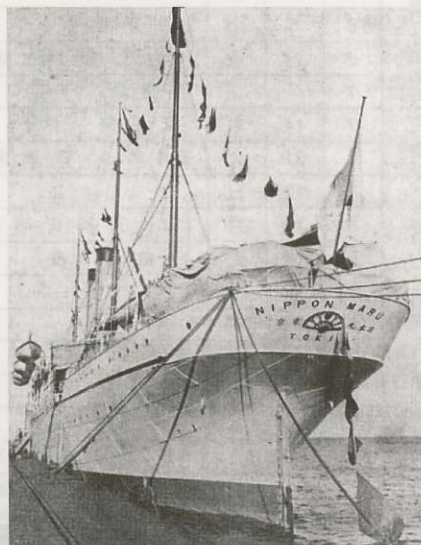


日本初の本格的な 遠洋航路客船

文・山田廸生（日本海事史学会副会長）

日本丸の船尾（山高五郎『日の丸船隊史話』より）



日本丸（『東洋汽船六十四年の歩み』より）

にっ ぽん まる 日本丸クラス

《 主 要 目 》 鋼製客船、東洋汽船所有、総トン数6,048トン、長さ127.6メートル、幅14.9メートル、主機3連成汽機2基（2軸）、出力8,500馬力、最高速力17.5ノット、旅客定員1等106人、2等14人、3等383人。明治31（1898）年英国サンダーランド、サー・ジェームズ・レイング社（Sir James Laing）で竣工。極東～サンフランシスコ航路に就航。大正8（1919）年チリの南米汽船会社（Sud Americana de Vapores）に売却。同型船香港丸、準同型船亜米利加丸（上記は日本丸のデータ。『明治32年版日本船名録』および『東洋汽船六十四年の歩み』による）

米国勢力下の太平洋航路に参入

米パシフィック・メール社（PM社）が幕末維新期にサンフランシスコ―横浜―香港航路を開設して以来、この太平洋の幹線航路はPM社など米国系企業の勢力下にあった。航路利用客の相当数は、清国や日本から北米に向かう出稼ぎ移民とその帰国者であった。

日清戦争後、この航路へ参入をたくらむ大胆な日本人企業家が現れた。浅野総一郎である。明治29（1896）年3月、浅野は親しい財界人を日本橋浜町の常盤屋に招いて宴を張った。渋沢栄一、安田善次郎、大倉喜八郎らが集まった。浅野はこの席で汽船会社の設立構想を明らかにした。浅野の頭の中にはサンフランシスコ航路の開設があった。

同年7月、浅野は東洋汽船を東京に設立。渡米してPM社を支配する鉄道会社の社長と交渉した。極東―北米西岸航路の運輸には、大陸横断鉄道との提携が不可欠であった。

浅野はねばり強く交渉し、PM社とオクシデンタル&オリエンタル社（O&O社、PM系列）との共同運輸交渉をまとめ、翌年、6千総トン、17ノット超の「日本丸」〔亜米利加丸〕「香港丸」を英国の造船所2社に発注した。船価は1隻98万円であった。

開業に先立ちハワイに立ち寄った浅野は、全島の新聞に東洋汽船の広告を出し、日系人

を前に「10年間に10万人の移民を輸送する予定である」と演説し大喝采を博した。

デビュー当時の新聞広告（明治31年11月30日付「毎日新聞」）を見ると、「日本丸」クラス3等定員は千人になっている。移民輸送時には、通常の3等客室（約400人定員）のほかに、船倉の一部をステイアリッジ（大部屋）に転用したものと思われる。

東洋汽船の北米航路参入は、米国やハワイへの移住状況を考えると、タイミングとしては悪くはなかった。だが、この時期になると、清国人の北米移民が少なくなっているうえ、日本人移民排斥の初動が米国西海岸を中心に発生していた。そして、東洋汽船参入の10年後には、日米紳士協約による日本人移民制限によって、北米移民は激減するのである。

PM社、O&O社と共同運輸

3客船は明治31（1898）年12月から翌年2月にかけてデビューし、香港―上海―長崎―神戸―横浜―ホノルル―サンフランシスコを結ぶ4週1回の運輸が開始された。

旅客関連の営業はPM社に委託された。提携先のPM社とO&O社は各3隻を配船したので、共同運輸としては、東洋汽船を加えた9隻による9日1回の航海となった。

新造時の3隻は3檣2煙突。クリッパー船首。船体は白。英カナディアン・パシフィッ

ク社の「エンプレス」級にそっくりだったが、まもなく中檣を撤去して2檣に改めた。

共同運輸なので、米国船のような雰囲気客船になった。船尾の船名を見ると、ローマ字標記のほうが大きく、漢字船名は小さく添えてあるだけだ（前頁写真）。食堂のメニューには、米国行きの航海がホームワード（本国行）、横浜へ向かう航海はアウトワード（外国行）と書かれていて、邦人船客から抗議が出たという。当時を知る山高五郎氏は「我々にとつて何となく日本の船と云う感が薄かった」と書いている（『日の丸船隊史話』）。

とはいえ、数年後の日露戦争のときは、その高速力を買われ、3隻とも仮装巡洋艦として活躍した。とくに「日本丸」と「香港丸」は、バルチック艦隊を偵察するため、遠く東南アジアからインド洋東方海域を巡航した。そのあと両船は、北方警備に従事し、戦時禁制品を積んだ中立国商船を5隻拿捕した。

明治末年、大型客船「天洋丸」クラスがサンフランシスコ航路に登場し、3客船は順次撤退。「亜米利加丸」と「香港丸」は大阪商船に売却され、台湾航路に就航。「日本丸」は第一次大戦後、チリの汽船会社に売却された。「香港丸」は昭和戦前期に解体。「亜米利加丸」は、太平洋戦争中、サイパンからの引揚げ邦人を乗せて航海中、米潜の雷撃を受けて沈没し、約600人が犠牲になった。